



## 武四郎とアイヌの人達

## 役員 高瀬淑子



あけましておめでとうございます。

今年は松浦武四郎生誕200年を迎え、様々な行事が計画されているようです。それらの諸行事が武四郎の業績を讃える心温まる催しになることを心から願っています。私も友の会の一員として精いっぱいのことをしたいと思っています。

さて先日、アイヌの人たちの自然観と松浦武四郎のそれについて問われ、私は次のように話しました。

アイヌの人たちは動物はもちろん、草木にも山にも川にも海にも、自然界のすべてのものに神が宿ると信じています。神からの恵みである熊や鹿、鮭を獲ってきたときは、猟にいった者だけでなく、老人も女、子どももコタンのすべての人が平等に分けます。犬にも分け与えます。

女たちが、野草、木の実、球根を採取するとき、神に祈り感謝して、必要以上のものは採りません。またアイヌの人たちは文字をもちませんでした。生活に必要な知恵はすべて年配の人から学んだからです。従って年とった人をいつも大切にし尊敬しました。

花崎皋平氏はその著「静かな大地」の中で、「松浦武四郎は、自然のうちから感謝して日々の糧を得、子を育て、隣人と談話や歌舞をたのしみ、やがて土に戻る人生を世々送る人びとに、神につうずる心とふるまいを感受することができた人だった。」「武四郎は歩く人だった。歩きながら考え、歩きながら観察し、歩きながら記録した人だった。したがって、彼の眼の高さは、その地で暮す人びととおなじ高さにあった。」と書いています。

武四郎はアイヌの人たちをただ道案内に雇っただけではありません。彼らと寝食を共にし、食べ物を分けあい、苦しみ、悲しみ、喜びをともにし、彼らの生きざまに共感する旅をしたのです。そうした武四郎のありようも旅の中で培われたものだったのです。

私たちは、自然とどうつきあい、すべての人が共存できる社会をどのように作っていくか武四郎に学ぶところが多いと思います。

会員みなさんとそれを考える一年でありたいと強く願っています。



僕は今年200歳になります。今年も宜しく願います。



平成三十年元旦



謹賀新年

今年も宜しく

お願いいたします。

役員一同

## 会員交流懇談会の報告

平成 29 年 12 月 10 日武四郎講座の後で、会員交流懇談会が開催され、沢山の提案・意見が出されました。

主なものは下記の通りです。役員会で検討の上新年度の事業活動に活かしたいと思います。

☆松浦武四郎の足跡を訪ねる旅

○東京方面(染井霊園・ICU一畳敷き・静嘉堂文庫)

○大宰府天満宮(神鏡)・・・但し、費用が高い

○他の神鏡を訪ねる旅も続けて欲しい

○西大台(武四郎の分骨碑)へのツアーを是非組んでほしい

○大杉谷へのツアーを・・・看板は 4 月 10 日に設置する予定

☆市政バスによる研修も続けて欲しい。

☆友の会日より

- ・年に 4 回発行は有難い。
- ・記念館の行事も記載してあり嬉しい。
- ・山本主任学芸員が他所で講演する計画も記載して欲しい。

☆他の団体との交流継続を

- ・ときめき高虎会(2 月 3 日に実施予定)
- ・北海道松浦武四郎同好会(仮称、近々に発足予定)

☆その他

- ・会費が安くて良い

☆武四郎生誕 200 年事業関連・行政への要望

- ・コミュニティバス・・・土日も運行をして欲しい。



活発な意見が出ました！

多くの提案・ご意見を

有難うございました！！

## 「ふるさと川俣祭り」のイベントに松阪の偉人たちが友情出演！！

11 月 18 日(土)、19 日(日)の両日に、飯高町で「ふるさと川俣祭り」が開催され、農産物の販売や芋煮のふるまいなどが催され、2 日間で延べ 1000 人程の参加がありました。

19 日午後には七日市飯高総合開発センターにおいて松阪の偉人たち 5 名(蒲生氏郷、三井高利、竹川竹斎、松浦武四郎、大谷嘉兵衛)がタイムスリップということで、各顕彰団体の代表が偉人に扮装して寸劇をしました。

武四郎友の会としては、飯田会長は武四郎に扮し、田中副会長と齊藤監事はアイヌ民族衣装で壇上上がり、茶王大谷嘉兵衛の会の小林典子理事の司会で、武四郎に関するエピソードを紹介した後、武四郎が蝦夷地探索・調査の様子を演じ、会場から盛大な拍手と笑いを受けました。



武四郎とアイヌに扮して登壇)

昨年までは「ふるさと川俣いも祭り」「茶王大谷嘉兵衛祭り」として開催していましたが、今年度から上記 2 つのお祭りとお文化祭とを合わせて「ふるさと川俣祭り」として 2 日間開催することになりました。

## 松浦武四郎誕生地保存会(新組織)が平成30年1月20日に発足！！

平成21年度に設立された「松浦武四郎誕生地保存会(旧組織)」は所期の目的を達成したことにより、平成29年7月29日に解散されたことは、前号でお知らせしましたが、新規組織である「松浦武四郎誕生地保存会」が、平成30年1月20日(土)に総会を開催し、設立されることになりました。

新たな松浦武四郎誕生地保存会は、地域の方々を中心に「中核的組織」を構成し、一般公開後の「日常管理」を支え、活用を推し進める役割を担っていきます。活用状況等、必要に応じて随時、お伝えしていきたいと思っております。

## 生誕200年記念事業のオープニングイベント開催！！

平成30年2月24日(13:30~16:00)農業屋コミュニティ文化センターにおいて、～武四郎の道は未来へとつづく～をテーマに開催されます。アイヌ文化伝承者である宇梶静江さんとご子息で俳優の宇梶剛士さんとのトークセッションがあります。定員は500名、入場無料です。

## 第23回「武四郎まつり」が開催されます

第23回「武四郎まつり」が、松浦武四郎記念館を中心会場として平成30年2月25日(日)に10:30~15:30に開催されます。また、誕生地は11:00から一般公開され、主屋や離れでは座敷に上れます。

今回のまつりは、「松浦武四郎生誕200年」という「祝いの冠」をかぶることになります。まつりでは、静内民族文化保存会の皆様方による「アイヌ古式舞踊」の披露や小野江小学校児童による「武四郎学習」の発表に加え、劇団ドラマシティの皆様方による「武四郎演劇」の公演など、盛りだくさんの内容が取りそろえられ、皆様のお越しをお待ち申し上げます。

さらに、保存修理を終えた松浦武四郎誕生地において、記念式典を行った上で、一般公開される運びとなっています。ご来場をお待ち申し上げます。

## 大杉地域おこしの会と交流！！

10月15日(日)雨天の中を武四郎の足跡を訪ねるバスツアーということで、「武四郎と大杉谷」をテーマに開催されました。

武四郎と大杉谷の関係について大台町住民がご存じの方が少ないとのことから、「大杉地域おこしの会」が主催して計画され、友の会として協力すると共に役員5名が参加し、明和町・大台町などを含め25名の参加がありました。

友の会の参加者は9時30分に大杉谷登山センター横に到着し、現地の方と落ちあってバスで移動しました。

村田区長さんの案内で、宮川第三発電所付近から前方の山にあった「奥定宮」を眺め、大杉谷登山口から絶景を眺め、ダム湖に沈んだ「中定宮」、「武四郎が泊まった浅井家」を車窓から案内を受け、「口定宮」ではバスから降りて案内を受けました。

次に、大杉大明神参拝後、「祈りの丘公園」で昼食を摂りながら懇談しました。

昼食後は、現地で撮影された写真展示を基に詳しく説明があり、参加者は興味深く耳を傾けていました。

※大杉谷との関わりは、武四郎が明治19年5月10日に未開の地大杉谷へ入峡の際、帰路に今はダム湖に沈んだ大杉村里に立ち寄り、大杉神社に参詣すると共に里の人々との交流をしています。



写真パネルで説明する村田区長



熱心に説明を聞く参加者

※「奥定宮」があった山や、「中定宮」、「口定宮」はダム湖に沈み、現在は「定神社」に合祀されています。

## 【記念館よりのお知らせ】

- ☆武四郎講座のご案内 ※下記は予定ですので、変更になる場合があります
- 2月11日(日)10:00～ 講師：坂田墨寿堂 テーマ：文化財の保存修理に関する内容  
3月11日(日)10:00～ 講師：佐藤貞夫先生 テーマ：四国遍路道中に関する内容  
4月8日(日)10:00～ 講師・テーマともに未定

## ☆展示のご案内

- ◆武四郎が読んだ本 ～ 2月12日(月)まで  
幅広い知識を身につけていた武四郎が読んだ本、集めた本から紹介
- ◆武四郎を生んだ松浦家 2月14日(水)～4月22日(日)まで  
武四郎の実家に代々伝わってきた資料から松浦家の姿を紹介

## 【友の会よりのお知らせ】

- ◆他団体との交流会について  
今回は「ときめき高虎会」(津市)と交流します。  
日時：平成30年2月3日(土)13:30～  
場所：松浦武四郎記念館 会議室  
参加希望者は役員まで申し出てください。
- ◆平成30年度の総会を、5月13日の武四郎講座終了後に開催します。  
多くの方々の出席をお願いいたします。
- ◆会員の皆さまへのお願い  
今年は、松浦武四郎生誕200年、北海道命名150年を迎え多くの記念事業が行われます。それに伴い、「松浦武四郎生誕200年記念事業実行委員会」が取組中であり、記念事業の詳細が決まれば、会員の参加・協力をお願いします。

## 井村屋が助成して「十勝日誌」が発刊されて、松阪市へ寄贈！！

平成26年に㈱たけしろうカンパニーが自由訳「久摺日誌」を発刊しましたが、今回は井村屋グループ㈱の助成で自由訳「十勝日誌」が発行されました。これは井村屋の操業の地が松阪市であること。また、あずきバーに代表される主要製品の原料である小豆は十勝の契約農家で作られているなど、北海道と縁が深いことから武四郎生誕200年、北海道命名150年を機に実現したものです。

完成した自由訳「十勝日誌」は松阪市に1500部ほど寄贈され、近々松阪市内の小学校に配布される予定です。児童が武四郎の偉業に触れるまたとない機会になると思います。

自由訳となっております読み易い表現です。記念館に置いてありますので、是非お読みになられることをお勧めします。

### 「第14回いつきのみや梅まつり」に参加

平成30年3月3日(土)10:00～14:00に「第14回いつきのみや梅まつり」が、斎宮歴史博物館南のふるさと広場梅林周辺で開催されます。従来の催しに加えて大人でも楽しめる「バルーンアート」もあります。平成26年度から友の会の活動展示などで参加していますが、今年は「アイヌ衣装の試着」も計画しています。大勢の皆様のお越しをお待ちしています。



表紙